

# ポストコロナの 都市交通・まちづくりに関する検討WG

第1回研究会

2022年2月9日  
9:00~11:30



公益財団法人

日本都市センター

# 本日の議題・進行

時間	議事次第等
9:00	1 開会
9:00-9:15	2 事務局資料説明 本研究会の企画概要について
9:15-9:50 (30分話題提供 +5分質疑応答)	3 話題提供① 高松市都市整備局建築指導課長補佐 兼 総務局デジタル推進部デジタル戦略課副主幹 (スマートシティ事業化推進担当) 兼 都市整備局交通政策課副主幹 (交通DX推進担当) 伊賀 大介 様
9:50-10:25 (30分話題提供 +5分質疑応答)	4 話題提供② 共同経営推進室長 熊本都市バス株式会社 代表取締役社長 高田 晋 様
10:25-11:25	5 フリーディスカッション
11:30	6 閉会



公益財団法人

日本都市センター

# ワーキンググループ全体の趣旨・目的

- 「感染症への対応を踏まえた都市政策に関する調査研究」として、新型コロナウイルス感染症への対応にまつわる様々な政策課題について調査研究を行っている。
- 交通分野においては、コロナ禍によって人の移動の自粛・制限が求められ、交通需要が大きく縮小したことから、公共交通の事業者は交通手段や規模を問わず、全体的に大きなダメージを受けている。
- 都市自治体・都市圏の移動を担う地域公共交通は、特に地方部において、コロナ禍以前より人口減少・高齢化やモータリゼーションによって需要が縮小しており、一方では生産年齢人口の減少に伴う働き手(特に運転手)の不足によって供給も不安定になっていた。
- 短期的な事業者の救済・支援に留まらず、中長期的な視点から、コロナ以前から指摘されてきた課題と、ポストコロナの新たな常態を踏まえ、都市・交通のあり方の変化を見据えた議論が必要である。
- 三大都市圏、地方圏という地域特性や、都市規模の違いによって、抱える課題と対応策は異なることから、各研究会では地域特性等を限定したうえで、事例紹介とディスカッションを行う。



# ワーキンググループ構成員

- 座長：谷口 守  
筑波大学システム情報系社会工学域 教授
- 委員：南 聡一郎  
国土交通省国土交通政策研究所 主任研究官

# 第1回研究会のテーマ

## 「地方中核都市における公共交通網再編と ポストコロナへ向けた戦略」

- 人口減少、運転手不足などを見据え、効率的で持続可能な公共交通網を形成するためのネットワーク再編は、コロナ禍以前からの課題であり、地方部の政令指定都市、中核市を中心として各地でその取組みが進められていた。再編によって利便性が向上することで、利用者数の増加、ひいては採算性の改善などが期待されるが、コロナ禍によって交通需要が大きく縮小したことで、当初想定されていた利用者増などの効果を見込むことは難しくなっている。しかしながら、中長期的な視点からは交通網の再編は軌道修正を図りながらも推進しなければならない。
- 本検討会議では、コロナ禍中の2020年以降に比較的大きな交通網の再編に関わる施策を実施した自治体を取り上げ、交通網の再編に関わる課題などについて議論する。
- 熊本市・・・2021年4月より一部路線で共同経営
- 高松市・・・新駅・交通結節点の開設と路線バス再編



# ディスカッションにおける論点案

- ① 中長期的な公共交通網の再編とコンパクトなまちづくりの連携
- ② コロナ禍による公共交通利用への影響と事業者支援の対応
  - ・ 緊急事態宣言中（まん延防止含む）の移動自粛による直接的・短期的な影響
  - ・ 「新たな生活様式」による需要の構造的な縮小の状況
- ③ 新たに実施した事業による効果のコロナ禍における評価のあり方
- ④ (地方中核都市における)今後の持続可能な公共交通のモデルとは？
  - ・ 公設民営と完全な民営との間のモデル 行政と民間の便益・費用のシェア
  - ・ MaaSの入り口としての運賃の決済システムのシェア・公設・公管理化
  - ・ 日本版の運輸連合？

